

# みみよう幼稚園だより



令和3年4月号 \* <http://mimyoe.org/youchien/>

## ◆◆◆コロナと共生しながら主体性を育もう◆◆◆

お子さまのご入園・ご進級おめでとうございます。これから始まる4月からの園生活は、新入園児はもちろんのこと進級児にとっても、しばらくは緊張の毎日になるものと思われまます。登園を嫌がるようでしたら、一言担任にその旨をお伝え下さい。

さて、当園の園名の「みみよう」は、仏説阿弥陀経というお経の中の「微妙香潔みみようこうけつ」から引用したものです。阿弥陀経は極楽を説明したもので、その一説に、池の中には車輪のような大きな蓮の花が咲いている。その花は青いのもあれば、黄色や赤、白いもある。それらが一齐に光り輝く様子は何とも言えないほど(微妙)、芳しく清らか(香潔)であるとあります。園名には、子どもたち一人ひとりが持って生まれた個性を伸ばしてあげたいという願いが込められています。

さて、コロナ感染症がなかなか収まりません。ワクチン接種が始まってこのウイルスは感染方法を変えるので、今年もマスクや三密に気を配りながらの生活になるものと思われまます。人生で一番成長の激しい乳幼児期の子どもたちにとっての今は今しかありませんので、園では感染症対策に最大の注意を払いながら、できるだけ子どもたちの活動は制限しないように保育をしてまいります。保護者の皆様も遠方に出掛けたり、感染しそうな場所に入出入りされたときは当分の間用心をして、少しでも体調の悪い人がいたら、お子さんを含めて登園しないようにしてください。

さて、昨年から小学校の学習指導要領が改訂され、それまでの「知識・技能」だけでなく、自分が向き合っている問題を解決する「問題解決型学力」を重視した学習方法が取り入れられ、話し合いの中で思考力や判断力を養う「アクティブ・ラーニング」と言われる学習方法が全教科に取り入れられました。この問題解決型学力と言われる子ども自身が「学びたい、知りたい」という意欲や、粘り強く取り組もうとする気持ちは、小学校に入ってから身につくものではありません。誕生後しっかりと可愛がられ、励まされながら自分に対する自信である自己肯定感が身につけていることが基礎になります。

当園では、子どもたちが自分から行動し(あそび)たくなるように、赤ちゃんのときから驚きと感動、楽しさを味わえる環境を用意して、大人に対する安心感や信頼感をもとに人が好きになってもらうことを保育の出発点にしています。1歳、2歳と成長していくと行動範囲が広がり、遊ぶ楽しさがわかるようになると、大人への信頼関係から今度は友達と遊ぶことが好きになり、コーナーあそびやごっこあそびを通して、友達と考えたり工夫しながら、「問題を見つけ解決する力」や「行動する力」、「やり抜く力」、「我慢する力」など、「非認知能力」といわれる目には見えない「やる気」が生まれ、この積み重ねが小学校以上に望まれる「学びに向かう力」へとつながってゆきます。

幼稚園における教育の目的は、あそびを通して非認知能力を高め、自分のことは自分で決める主体性を育てるところにあります。この自分のことを自分のこととして決める主体性は、園でコーナーあそびやごっこあそびなど非認知能力を高めるあそびをするだけでは育ちません。主体性を育てる一番大切な鍵は家庭にあります。ご両親が頭ごなしに「あしなさい。こうしなさい」と命令していたのでは、指示待ちの子どもになります。「できたら褒める」、失敗した時は「なぜ、失敗したのか」を話し合い、お子さんが自分で失敗した原因に気がつくようにしてあげることが、時間がかかっても主体性を育てることになります。今年度もいろんなことがあると思われまますが、よろしくお願ひ致します。

理事長 松尾 龍一

## ご入園・ご進級おめでとございます

いよいよ令和3年度のスタートです。今年度も、決して油断することなく新型コロナウイルス感染症の対策を十分に講じながら、皆様に安心していただける園生活を提供して参ります。引き続き様ざまな場面で、ご協力をお願いすることとなりますが、子どもたちにとって、楽しく夢と希望に溢れる一年にしていきたいと思っております。急な変更をする場合につきましては、きつずノートを活用し、速やかにお伝えしていきます。職員一同、細心の注意を払いながら、力を合わせて頑張ります。ご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

### 「感謝と思いやり」のある「自主的な行動」のとれる子に



つくし・さくら組さんが、年長さんに卒園祝いの手づくりメダルをプレゼントしました。2021. 3. 17

みみょうの教育目標です。人の中で育つからこそ、育まれ伸びていく大切な力であり心です。先日、執り行いました第94回卒園式の練習場面での一コマです。その日は、年中代表の子どもが初めて式場で在園児挨拶をする日でした。本番さながらのホールで、正面に向かって歩くところから、とても緊張をしており、挨拶もまだ、たどたどしくもありました。それでも一生懸命、一言ひとこと、卒園児に伝えている真剣な姿に、見ている先生たちもときどきしていました。卒園児たちも全員がその様子に注目し、集中して聞いていました。そして、挨拶が終わり、一礼をした瞬間に、

卒園児から本当に自然に、温かい拍手が広がっていきました。卒園児みんなが応援の気持ちと感謝の気持ちを拍手にこめたのです。在園児と卒園児の心が一つになったそれは温かい瞬間でした。代表の女の子も、ほっとしたのと同時に、とても嬉しそうな表情をしていました。その場にいた先生たちは、子どもたちがつくってくれた優しい温かい空気に包まれて、とても幸せな気持ちになりました。もちろん、卒園式当日は卒園児さんも在園児代表さんも、それは素晴らしい立派な姿で、巣立ち、また送り出すことができました。心の通う温かい卒園式になりました。

みんなの聞く力が高まっています。聞く力は、相手を意識し、理解しようとする気持ちや思いやる気持ちがあってこそ、初めて成立する力です。「しっかり聞きましょう。」と伝えたからといってすぐに身につく力ではありません。家族や友だちとの関わりや交わりによって培われる力です。他者を大切にすることは、自分の気持ちを大切にすることにつながります。自分自身を大切にできることは自主的な行動の原点になります。決して一人では育たない力です。幼児期の成長や発達を、大事に丁寧に促していくことが、生涯にわたる人間形成の土台となることは、多くの研究においても証明されています。聞く力のついた子どもたちは、社会人に必要とされる3つの能力である、“考え抜く力”や“チームで働く力”の土台を身につけたと言えるでしょう。そして、それは必ず“前に踏み出す力”にも繋がっていくはずで、これからも「感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子」を育てていくことに自信と誇りを持って、今年度も、子どもたち主導となるあそびが豊かに展開されていきますように、工夫を重ねていきたいと思っております。

園長 三上 玲子